基礎研レポート

# 身近に潜む子どもの事故(2)

## -2021 年米国における「不慮の事故(傷害)」での死亡数は 22 万人超、夏季にリスク増大、1 歳－24 歳で死因順位第 1 位-

生活研究部 研究員　乾　愛
(03)3512-1847　m-inui@nli-research.co.jp

## 1――はじめに

子どもの死亡原因の上位を占める「不慮の事故」は、子どもの発達段階が大きな影響を与える。子どもの事故死亡リスクを上げるも下げるも、その環境を整える保護者に責務が生じると言って差し支えない。子どもの発達段階を知識として習得し、その予防策を講じることは重要な保護者の役目なのである。

そこで、前稿（第 1 稿）では[1]、保護者や子どもを取り巻く大人たちに事故予防の重要性を認識してもらうことを目的に、厚生労働省の人口動態統計データを用いて子どもの事故の特徴を捉え概観した。

その結果、「不慮の事故」による死亡者数は大幅な減少が認められるものの、子どもの死因別順位では、0 歳から 19 歳の年齢層全てにおいて「不慮の事故」が 4 位以内に入ることが明らかになった。

本稿では、CDC が公表する傷病レポートのデータから、2020 年米国の家庭における不慮の事故の特徴を概観する。

尚、第 3 稿では、ICD-10 の疾病分類で整理した、家庭における不慮の事故の詳細を日米比較し、その結果明らかとなった特徴を示す予定である。

## 2――CDC の統計データから捉える、米国の不慮の事故の特徴

### 2－1｜2021 年米国における不慮の事故による死亡者総数(月別統計)

まず、CDC が公表している米国における死亡者数の統計データの中から、死因が「不慮の事故」である死亡者数のみのデータを抽出し図表 1-1 へ示し、2018 年から 2021 年までの月別死亡者数を図表 1-2 へ示した。

その結果、「不慮の事故」を死因とする死亡者数は、2018 年に 167,127 人であったのに対し、年々

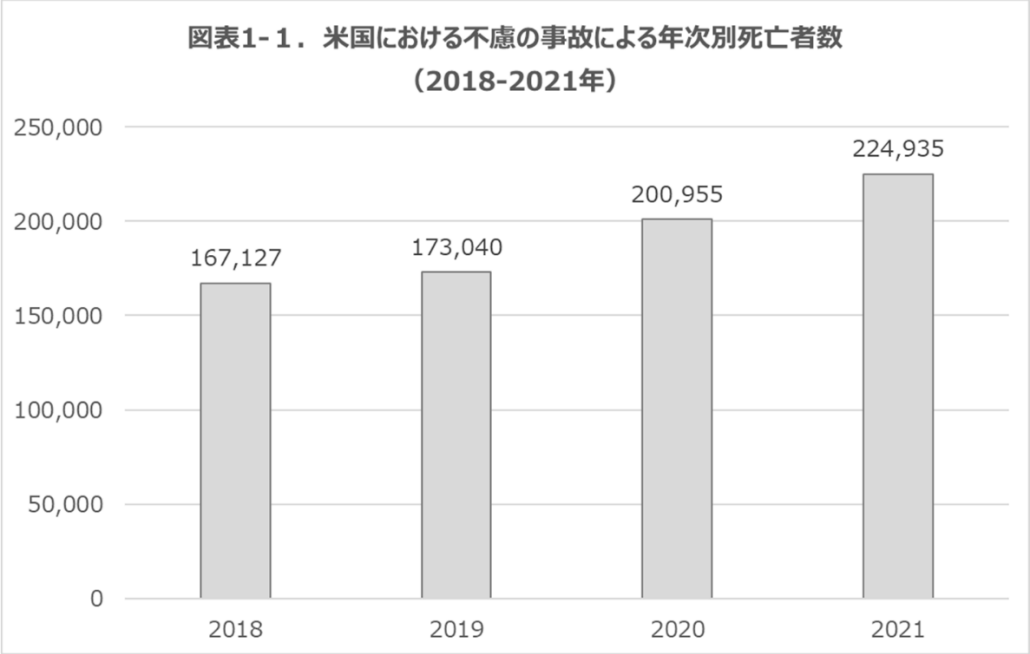
[1] 乾　愛　基礎研レポート「身近に潜む子どもの事故（1）」(2023 年 6 月 6 日)
https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=75033?site=nli

Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

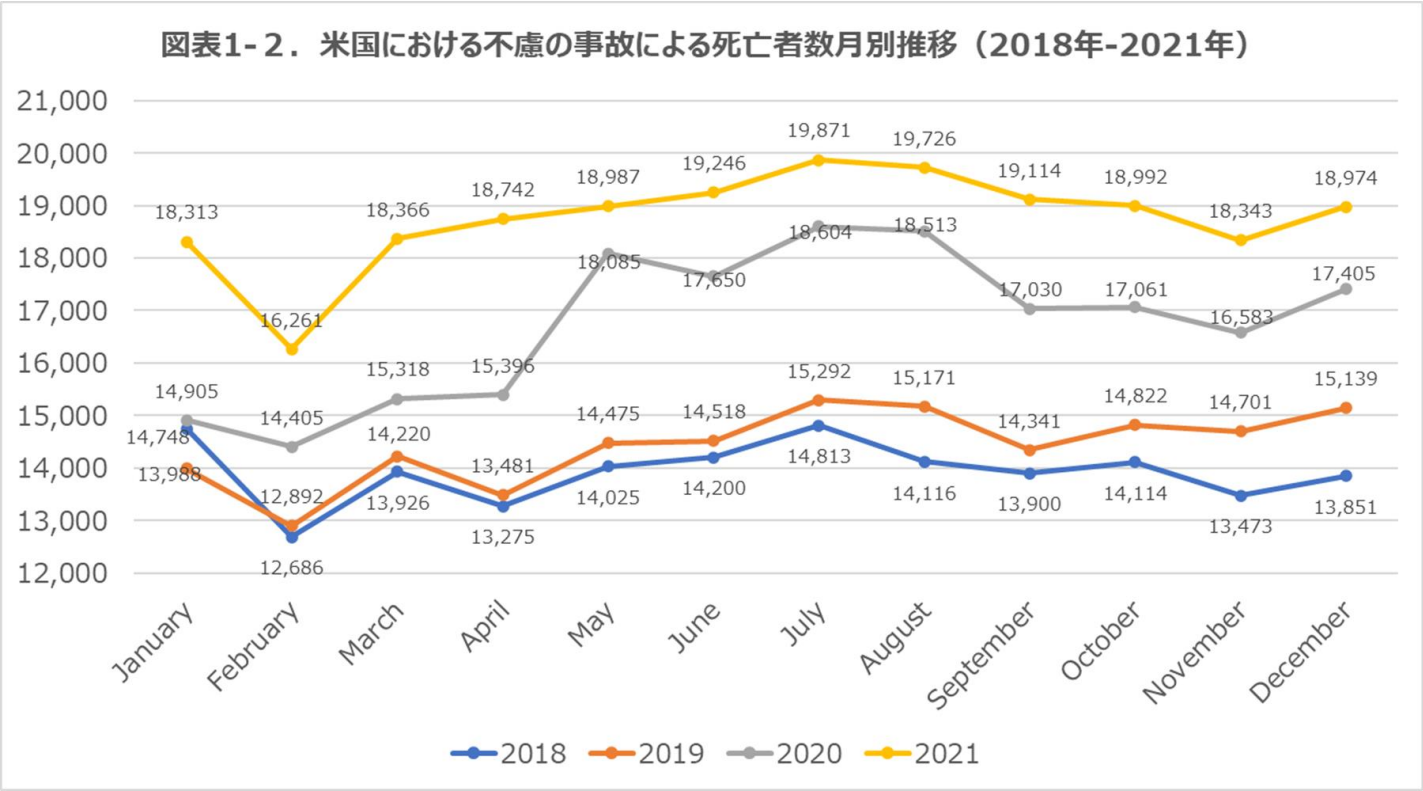
増加の一途をたどり、2021 年には 224,935 人へ増加していることが分かる。

また、2018 年から 2021 年の月別の不慮の事故による死亡者数をみると、2 月頃には死亡者数が少なく、7 月頃をピークに不慮の事故による死亡者数が増大する図形を示すことが明らかとなった。

不慮の事故による月別の死亡者数のデータは、日本の人口動態統計では公表されていないが、日本の統計データの特徴からも、行動範囲が拡大する年齢において死亡者数の増加が懸念されることから、米国においても、社会活動や行動が活発となる（学生は学年間休暇時期にあたる）時期と不慮の事故による死亡リスクとの関連性が推察される結果となっている。




出所）CDC, Fatal Injury Trends, https://www.cdc.gov/injury/wisqars/fatal/trends.html より、「不慮の事故（傷病）」による死亡者数を月別データとして抽出し、そのデータを年次別に筆者が再編し、図表を作成




出所）CDC, Fatal Injury Trends, https://www.cdc.gov/injury/wisqars/fatal/trends.html より、「不慮の事故（傷病）」による死亡者数を月別データとして抽出し、筆者が図表を作成

 Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

## 2－2｜2020 年米国全体の死因順位では、心疾患が第 1 位で、第 5 位に不慮の事故

次に、CDC の傷病関連の統計レポートから、年齢階級別、死因別順位に関する統計データを抽出し、図表 2-1 へ示した。（上述の 2021 年の詳細データが反映されていなかったことから 2020 年データを用いた。）

その結果、2020 年の米国における死因第 1 位は心疾患（Heart Disease）で 1 年間の死亡者数は、12,798,072 人（39.1%）と分かった。第 2 位の死因は、悪性新生物（Malignant Neoplasms）で 1 年間の死亡者数は、11,541,940 人（35.3%）、第 3 位の死因は、脳血管疾患（Cerebrovascular）で 1 年間の死亡者数は、2,849,575 人（8.7%）、第 4 位の死因は、慢性的な低血圧及び呼吸器疾患（Chronic Low. Respiratory Disease）で、1 年間の死亡者数は、2,817,859 人（8.6%）、第 5 位の死因が、不慮の事故となり、1 年間の死亡者数は、2,693,182 人（8.2%）であることが明らかとなった。

**図表２－１．2020年米国における年齢階級別死因順位（全年齢区分、第5位まで抽出）**

単位：人

| | <1 | 1-4 | 5-9 | 10-14 | 15-24 | 25-34 | 35-44 | 45-54 | 55-64 | 65+ | All Ages |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Congenital Anomalies 102,093 | Unintentional Injury 28,457 | Unintentional Injury 17,501 | Unintentional Injury 20,795 | Unintentional Injury 273,731 | Unintentional Injury 351,938 | Unintentional Injury 364,299 | Malignant Neoplasms 919,730 | Malignant Neoplasms 2,138,107 | Heart Disease 10,324,384 | Heart Disease 12,798,072 |
| 2 | Short Gestation 85,098 | Congenital Anomalies 9,615 | Malignant Neoplasms 9,083 | Malignant Neoplasms 9,189 | Homicide 100,843 | Suicide 123,895 | Malignant Neoplasms 252,131 | Heart Disease 714,220 | Heart Disease 1,427,679 | Malignant Neoplasms 8,100,550 | Malignant Neoplasms 11,541,940 |
| 3 | Sids 37,684 | Homicide 7,323 | Congenital Anomalies 3,724 | Suicide 6,938 | Suicide 97,450 | Homicide 96,392 | Heart Disease 229,722 | Unintentional Injury 404,786 | Unintentional Injury 317,361 | Cerebrovascular 2,449,667 | Cerebrovascular 2,849,575 |
| 4 | Maternal Pregnancy Comp. 31,136 | Malignant Neoplasms 7,189 | Homicide 2,660 | Homicide 3,793 | Malignant Neoplasms 31,300 | Malignant Neoplasms 73,174 | Suicide 136,824 | Liver Disease 164,587 | Chronic Low. Respiratory Disease 299,607 | Chronic Low. Respiratory Disease 2,407,622 | Chronic Low. Respiratory Disease 2,817,859 |
| 5 | Unintentional Injury 23,143 | Heart Disease 3,136 | Heart Disease 1,698 | Congenital Anomalies 3,464 | Heart Disease 19,953 | Heart Disease 66,986 | Homicide 62,171 | Suicide 157,986 | Diabetes Mellitus 252,964 | Alzheimer's Disease 1,759,419 | Unintentional Injury 2,693,182 |

出所）CDC, Injury, Prevention & Control, Fatal Injury Trends https://www.cdc.gov/injury/wisqars/fatal/trends.html
及び、WISQARS　LEADING CAUSES OF DEATH VISUALIZATION TOOLにて、（Filter data: Years:2020, State: All State, Sex: Both Sexes, Ages:1-4in5years groups:15-65 in10 year group, Race: All Race, Ethnicity: All Ethnicities.）データを抽出し、筆者が図表作成

年次が異なるが、2021 年日本の全年齢における死因順位は、第 1 位が悪性新生物、第 2 位が心疾患、第 3 位が老衰で、不慮の事故による死因順位は第 7 位であることから、心疾患や脳血管疾患が死因の上位に食い込むことに加え、病気以外の死因では「不慮の事故（傷病）」がランクインすることは日米に共通する死因であることが分かった。

一方で、日本の死因第 3 位には、米国では認められない老衰が死因の第 3 位に挙げられていることから、日本の高齢社会特有の死因として構造の違いが認められる。

## 2－3｜2020 年米国の子どもの年齢が含まれる階級における不慮の事故の死因順位は、0 歳第 5 位、1 歳-24 歳では第 1 位

次に、子どもの年齢階級が含まれる 0 歳以上、15 歳－24 歳の年齢階級にデータを絞り、図表 2-2 へ示した。

不慮の事故の死因順位に焦点を当てると（青マーカー）、0 歳では死因の第 5 位、1 歳から 4 歳では

Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved

第 1 位、5 歳から 9 歳でも第 1 位、10 歳から 14 歳でも第 1 位、15 歳から 24 歳でも第 1 位を占めていることが明らかとなった。

この特徴は、日本の 0 歳から 19 歳の年齢階級別死因順位が全てトップ 4 に入っていた傾向と合致する。

年齢階級区分が日本のデータと一致していないため単純に比較することはできないが、米国でも、0 歳以外、1 歳以降の子どもの年齢が含まれる階級において、不慮の事故（傷病）が死因順位の上位にランクインする傾向が認められるのである。

文化や環境が異なることを考慮すると、人間としての発達段階が不慮の事故の発生リスクに影響を及ぼしている可能性が否定できないことが示唆されている。

**図表２－２．2020年米国における年齢階級別死因順位（0歳～24歳区分のみ抽出）**

| | <1years | N | % | 1 - 4 years | N | % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Congenital Anomalies | 102093 | 36.6 | Unintentional Injury | 28457 | 51.1 |
| 2 | Short Gestation | 85098 | 30.5 | Congenital Anomalies | 9615 | 17.3 |
| 3 | Sids | 37684 | 13.5 | Homicide | 7323 | 13.1 |
| 4 | Maternal Pregnancy Com | 31136 | 11.2 | Malignant Neoplasms | 7189 | 12.9 |
| 5 | Unintentional Injury | 23143 | 8.3 | Heart Disease | 3136 | 5.6 |

| | 5-9years | N | % | 10-14years | N | % | 15-24years | N | % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Unintentional Injury | 17501 | 50.5 | Unintentional Injury | 20795 | 47.1 | Unintentional Injury | 273731 | 52.3 |
| 2 | Malignant Neoplasms | 9083 | 26.2 | Malignant Neoplasms | 9189 | 20.8 | Homicide | 100843 | 19.3 |
| 3 | Congenital Anomalies | 3724 | 10.7 | Suicide | 6938 | 15.7 | Suicide | 97450 | 18.6 |
| 4 | Homicide | 2660 | 7.7 | Homicide | 3793 | 8.6 | Malignant Neoplasms | 31300 | 6.0 |
| 5 | Heart Disease | 1698 | 4.9 | Congenital Anomalies | 3464 | 7.8 | Heart Disease | 19953 | 3.8 |

出所）CDC, Injury, Prevention & Control, Fatal Injury Trends https://www.cdc.gov/injury/wisqars/fatal/trends.html
及び、WISQARS　LEADING CAUSES OF DEATH VISUALIZATION TOOLにて、（Filter data: Years:2021, State: All State, Sex: Both Sexes, Ages:1-4in5years groups:15-65 in10 year group, Race: All Race, Ethnicity: All Ethnicities.）データを抽出し、0歳から24歳の年齢区分のみで筆者が図表作成

## 3――まとめ

本稿では、CDC が公表する傷病レポートから、米国の不慮の事故（傷病）における特徴を分析した。

その結果、米国の「不慮の事故」を死因とする死亡者数は、2018 年に 167, 127 人であったのに対し、年々増加の一途をたどり、2021 年には 224, 935 人へ増加していた。米国では月別の死亡者数が 7 月の夏季にピークを迎え増大し、2 月に減少傾向が認められることから、社会活動や行動範囲の拡大と不慮の事故との関連性が示唆される結果となった。

また、2020 年の米国における死因順位の第 5 位に不慮の事故が位置しており、1 年間の死亡者数は、2, 693, 182 人（8. 2%）にのぼり、日米に共通して、疾患を除いた死因として唯一、不慮の事故（傷病）が死因順位の上位を占めることが明らかとなった。

さらに、子どもの年齢層を含む 0 歳から 24 歳までの不慮の事故による死亡順位を整理すると、0 歳では第 5 位、1 歳－24 歳までの年齢階級の全てにおいて死因の第 1 位を占めていることが明らかとなった。

これらの結果は、日本の子どもの年齢階級における死因順位とも合致しており、文化や環境が異なることを考慮しても、子どもが含まれる年齢層において不慮の事故による死亡リスクが、他の年齢階級よりも高く、特徴的であることが示唆されている。

 Copyright ©2023 NLI Research Institute All rights reserved